



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 40 別紙2

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 40 別紙2. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 40(別紙2)

ISSUE DATE:

1955-12-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186834>

RIGHT:

別紙 2

京大臨海実験所水族館道路の 通行制限に関する覚書

標記の件に関し、京大臨海実験所、番所山植物園、白浜町芝田と、及び全雑賀彌之助は下記の取決めの事項を承認し、これを確実に実行するため、本覚書四通を作成し、各代表者が署名捺印の上、夫々一通を所持するものとする。

記

1. 実験所正門側に制札を設置し、正門道(右)を公用に、海岸道(左)を水族館植物園方面の私用に使用する旨を標示する。
2. 正門道は、特別なる場合を除き、公用以外の一般車馬及び観光客の通行を禁止する。
3. 水族館道は歩行者及び徐行自転車は何時使用してもさしつかえない。
4. 業務用モーター付車及馬車は、歩行者の閑散時に限り徐行することを条件として水道館道を通つてよい。
5. 水族館道に歩行者多数ある場合、業務用車輛は実験所の許可を得れば、正門道を徐行通過することができる。
6. 之がため交通の妨害となるようなものは、水族館道におかない。
7. 休祭日には正門は鉄索をもつて閉鎖する。
8. 以上の各項を関係業者及び外來通行者に周知せしめると共に、交通道德の向上を喚起する。
9. 兩方、道路使用のことに関し、疑義が生じた場合には、前記を

四者の会談によって決定し、これと処理するものとする。

以 上、

昭和30年12月26日

京都大学瀬戸臨海実験所代表

株式会社番所山植物園代表

白浜町瀬戸続500番地

白浜町瀬戸

内海 富士夫

榎本 林 作

芝田 與 七

難 賀 彌之助